

第3章 第3次健康知立ともだち21計画(健康増進計画)

1. 第2次計画の評価

(1) 目標達成状況

第2次健康知立ともだち21計画の策定時に設定した目標項目の達成状況については、統計データやアンケート調査により得られた結果をもとに分析を行い、2024（令和6）年2月に「第2次健康知立ともだち21計画最終評価報告書」を取りまとめました。

その結果をみると、第2次健康知立ともだち21計画に掲げた60指標のうち、26項目が「A：達成」もしくは「B：改善」の評価を得ており、これらは全体の43.3%となっています。

■目標達成度の判断基準

判定区分	判定基準
A：達成（目標値に到達した）	目標達成、または達成率 90%以上
B：改善（目標値に到達していないが改善した）	達成率 10%以上 90%未満
C：変化なし（変化がない）	達成率 -10%以上 10%未満
D：悪化（悪化している）	達成率 -10%未満
-：判定不能（判定ができない）	判定不能

※達成率は「（現状値－基準値）÷（目標値－基準値）×100」で算出。

■分野別の評価結果

評価の上段：該当数、評価の下段：各項目に占める割合

基本方針・分野		評価 指標 項目数	評価				
			A 達成	B 改善	C 変化なし	D 悪化	- 判定不能
1. 生活習慣を見直し健康を増進します	①栄養・食生活	17	1 5.9%	3 17.6%	3 17.6%	9 52.9%	1 5.9%
	②身体活動・運動	6	0 0.0%	3 50.0%	0 0.0%	3 50.0%	0 0.0%
	③休養・こころの健康	3	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%
	④喫煙・飲酒	6	0 0.0%	3 50.0%	0 0.0%	3 50.0%	0 0.0%
	⑤歯・口腔の健康	7	4 57.1%	2 28.6%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%
2. 疾病の発症予防と重症化予防を徹底します	①がん	5	0 0.0%	2 40.0%	2 40.0%	1 20.0%	0 0.0%
	②循環器疾患・糖尿病	10	0 0.0%	4 40.0%	2 20.0%	4 40.0%	0 0.0%
3. 社会で支える健康づくりを推進します		6	0 0.0%	2 33.3%	0 0.0%	4 66.7%	0 0.0%
合計		60	6 10.0%	20 33.3%	7 11.7%	26 43.3%	1 1.7%

※割合は小数点以下第2位で四捨五入しているため、合計値が100.0%とならない場合がある。

(2) 分野ごとの評価と今後の方向性

基本方針1 生活習慣を見直し健康を増進します

①栄養・食生活

生活習慣病予防や健康寿命の延伸のためには、若い頃から望ましい食習慣を身につけることが重要となるため、必要な食事量を知り適正体重を維持することの重要性などについて、広報紙や食育だよりをはじめ、様々な方法において周知・啓発を行いました。また、給食レシピ集や健康すごろくを独自に作成して市民に配布し、朝食の必要性や栄養バランスのよい食事の重要性を伝えました。健康知立（ともだち）マイレージ事業においては、子ども向けのKIDSマイレージを開始し、大人だけでなく子どもも楽しみながら健康づくりができるように体制を整えました。

しかし、各世代において朝食の欠食や朝食での野菜摂取不足は改善しておらず、一人ひとりの意識が高まるよう、効果的なアプローチ方法を検討する必要があります。園児、児童、生徒、40～64歳については肥満者の割合も増加しています。特に40～64歳では3割以上が肥満となっており、肥満の予防、改善に向けて取組を強化していくことが求められます。



健康すごろく



給食レシピ集

指標ごとの目標達成状況

※実績・目標値は年度の値

評価指標	対象者	実績			目標値 2024 (R6)	評価
		策定時値 2013 (H25)	中間評価 2019 (R1)	現状値 2023 (R5)		
朝食を欠食する人の割合の減少	園児	3.9%	5.8%	6.3%	0.0%	D
	児童	3.9%	6.8%	5.9%	0.0%	D
	生徒	7.0%	7.8%	10.0%	3.0%	D
	20歳代	23.0%	18.2%	29.2%	15.0%	D
	40～64歳	11.4%	9.0%	17.1% (2022 (R4))	10.0%	D

評価指標	対象者	実績			目標値 2024 (R6)	評価
		策定時値 2013 (H25)	中間評価 2019 (R1)	現状値 2023 (R5)		
朝食に野菜を食べている人の割合の増加※	園児	28.7%	24.6%	21.6% (参考値)	80.0%	-
	児童	36.1%	38.3%	33.8%	80.0%	C
	生徒	30.1%	38.8%	31.1%	80.0%	C
	20～74 歳	34.7%	31.8%	33.5%	80.0%	C
肥満者の割合の減少	3 歳児	5.9%	5.9%	3.7% (2022 (R4))	4.8%	A
	園児	3.2%	4.0%	5.7% (2022 (R4))	2.7%	D
	児童	6.1%	9.2%	9.5% (2022 (R4))	5.0%	D
	生徒	8.6%	9.4%	9.7% (2022 (R4))	8.0%	D
	40～64 歳	25.1%	28.8%	30.6% (2022 (R4))	21.8%	D
よく噛んで食べる人の割合の増加	児童	52.9%	58.3%	67.0%	70.0%	B
	生徒	33.6%	55.5%	57.3%	70.0%	B
	20～74 歳	35.3%	33.2%	47.1%	70.0%	B

※朝食を食べている人のうち、野菜を食べている人の割合。園児の現状値については策定時値、中間評価時と設問形式が異なっているため、参考値としている。

■今後の方向性

- 朝食の欠食や野菜不足、栄養バランスが偏った食事などの課題がみられるため、食生活改善の取組を進めていきます。また、幼児期から望ましい食習慣を身につけることが大切であるため、効果的なアプローチ方法を検討していきます。
- 睡眠時間が少ない人や就寝時間が遅い人に、朝食を欠食している人が多くみられるため、早寝・早起き・朝ごはんの習慣づけに向けての取組を進めていきます。
- よく噛んで食べる人の割合は、アンケート結果をみると、40 歳代、50 歳代で低い傾向がみられるため、特定保健指導など様々な機会において、よく噛んで食べることを指導するほか、チラシを配布するなどの周知を行っていきます。
- 肥満者の割合が増加傾向にあり、特定健康診査や特定保健指導を活用した重点的な取組を進めます。また、朝食を食べている人やよく噛んで食べている人は、そうでない人に比べて肥満の割合が低くなっているため、あらゆる機会を活用し、朝食摂取やよく噛むことの重要性を周知していきます。

②身体活動・運動

定期的に、健康ボランティアによる健康ウォーキングを開催し、市民が手軽にウォーキングに参加できるよう支援しました。指標のひとつである運動習慣者の割合は計画策定時から増加傾向にあります。

市民歩け歩け運動の参加者や新規スポーツ教室数については、コロナ禍の影響もあり、増加することができませんでしたが、現在、健康知立マイレージ事業において、運動イベントへの参加でポイントを加算する取組を進めています。そのほか、健康ボランティアをはじめ、スポーツ推進員、池鯉鮒散歩みち協議会など、運動づくりに関するボランティアや指導者を育成に関する支援を行いました。

ロコモティブシンドローム^{*1}の意味を知っている人の割合は計画策定時より減少しており、目標値と大きく乖離しているため、引き続き周知に取り組む必要があります。



健康ボランティアによる健康ウォーキング



健康知立（ともだち）マイレージ

■指標ごとの目標達成状況

※実績・目標値は年度の値

評価指標	対象者	実績（年度）			目標値 2024（R6）	評価
		策定時値 2013（H25）	中間評価 2019（R1）	現状値 2023（R5）		
運動習慣者（1日30分以上の運動を週2回1年以上継続）の割合の増加	40～64歳	28.1%	26.7% (2018（H30）)	32.5% (2022（R4）)	36.0%	B
ロコモティブシンドロームの意味を知っている人の割合の増加	20歳以上	28.3%	34.8%	21.6%	80.0%	D
散歩みちウォーキングイベント参加者の増加	市民	122人	151人	163人 (2022（R4）)	200人	B
河川堤防沿いの散歩みち整備	-	2,768m	4,032m	4,221m	4,568m	B

^{*1} ロコモティブシンドローム：加齢に伴う筋力の低下や関節や脊椎の病気、骨粗しょう症などにより運動器の機能が衰えて、要介護や寝たきりになってしまったり、そのリスクの高い状態を表すことば。

評価指標	対象者	実績（年度）			目標値 2024（R6）	評価
		策定時値 2013（H25）	中間評価 2019（R1）	現状値 2023（R5）		
新規のスポーツ教室の増加	市民	1 教室	1 教室 (2018（H30）)	0 教室 (2022（R4）)	5 教室	D
市民歩け歩け運動への参加者の増加	市民	1,500 人	1,500 人	500 人 (2022（R4）)	1,800 人	D

■今後の方向性

- 運動習慣がない理由としては、「忙しい」、「めんどろ」、「きっかけがない」といった回答が多くなっているため、忙しい人でも気軽に取り組めるような運動について周知するなど、きっかけづくりと継続に向けた支援を行っていきます。
- 女性は運動習慣者の割合が低く、男性よりも運動が嫌いと回答する人が多いため、運動の楽しさを周知していきます。
- ロコモティブシンドロームの意味を知っている人の割合は減少しているため、ロコモティブシンドローム予防の推進に向けて、更なる周知を図っていきます。

③休養・こころの健康

自分や周りの人のこころの不調に気づけるように、こころの体温計*2について、広報紙、市役所電光掲示板、福祉健康まつりなどの機会を用いて広く周知しました。また、こころの健康に関する講演会などを広く実施し、市民に情報提供を行いました。園や学校、家庭に対しても、正しい生活習慣やこころの健康につながる知識や情報を周知・啓発するため、食育だよりや保健師だより、保健だよりなどを通じて伝えました。高齢者向けとしては、高齢者サロンで食事会やお茶会を実施し、こころの健康につながる事業を支援しました。

しかしながら、ストレスを感じている人の割合は増加しているため、睡眠や休養の重要性を周知するとともに、悩みの相談先の周知等、抱えているストレスを軽減させるために必要な情報提供を合わせて行っていく必要があります。

一方で、ゆったりとした気分で子どもと過ごせる人の割合は増加し、目標値を大きく上回っており、妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援として進めてきた「にじいろニコニコ事業」の効果があったものと考えられます。



にじいろニコニコ事業

*2 こころの体温計：パソコン、スマートフォンなどから簡単な質問に答えることで、ストレス度や落ち込み度をチェックできるシステムのこと。

■指標ごとの目標達成状況

※実績・目標値は年度の値

評価指標	対象者	実績			目標値 2024 (R6)	評価
		策定時値 2013 (H25)	中間評価 2019 (R1)	現状値 2023 (R5)		
睡眠による休養を十分に取れている人の割合の増加	40～64 歳	67.8%	68.2% (2018 (H30))	73.0% (2022 (R4))	83.0%	B
ストレスを感じている人の割合の減少	20～74 歳	21.8%	21.6%	28.7%	14.9%	D
ゆったりとした気分で子どもと過ごせる人の割合の増加	3・4 か月児 健康診査	68.4%	83.0% (2018 (H30))	87.9% (2022 (R4))	74.6%	A

■今後の方向性

- 睡眠による休養を十分に取れている人の割合は増加傾向にありますが、アンケート結果をみると、男性の 40 歳代、50 歳代での割合が低くなっているため、十分な睡眠によりこころの健康が保持増進できるよう睡眠の重要性を周知し、情報提供を行っていきます。
- ストレスを感じる人の割合は増加しているため、気軽に相談できる体制づくりを進めるとともに、関係機関等と連携し情報提供を行うなど、更なる周知・啓発を行っていきます。
- 睡眠時間とストレスには相関関係がみられるため、質の良い睡眠に関する情報提供を行っていきます。また、孤独を感じる人ほどストレスを抱えやすい傾向にあるため、地域の交流の機会の充実を図っていきます。
- 小中学生ではスマートフォン等の使用が睡眠時間に影響していると考えられることから、メディア（テレビ、スマートフォン、ゲーム）の適正利用に向けた啓発を進めていきます。
- 乳幼児期の子どもの持つ母親は子育てに対する不安や負担感から孤独を抱えやすい傾向にあるため、引き続き子育て中の親子を支援する取組を進めていきます。

④喫煙・飲酒

20 歳未満者の喫煙防止を徹底するため、体育科、保健体育科の授業や特別活動を通した学習を実施したほか、保健師だよりを作成し、保護者に周知・啓発しました。そのほか、母子手帳交付時や乳幼児健診時において、知立市独自で作成した禁煙啓発リーフレットなどを配布し、喫煙が及ぼす影響について正しい知識の普及に努めました。妊娠中の喫煙者は減少していますが、40～74 歳の喫煙者はわずかながら増加しているため、成人向けの禁煙支援に取り組む必要があります。

飲酒についても、広報紙や市ホームページを活用して情報提供を行ったほか、「はたちの集い」ではリーフレットを配布し、啓発に努めました。しかしながら、生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人は一定数みられるため、引き続き健康に及ぼす影響について啓発を行っていく必要があります。

■指標ごとの目標達成状況

※実績・目標値は年度の値

評価指標	対象者	実績			目標値 2024 (R6)	評価
		策定時値 2013 (H25)	中間評価 2019 (R1)	現状値 2023 (R5)		
喫煙者の割合の減少	妊娠中	3.7%	2.1% (2018 (H30))	1.4% (2022 (R4))	0.0%	B
	40～74 歳	13.2%	14.2% (2018 (H30))	13.9% (2022 (R4))	7.9%	D
COPD（慢性閉塞性肺疾患）*3という疾患を知っている人の割合の増加	20～74 歳	55.7%	48.9%	32.1%	80.0%	D
受動喫煙防止対策認定施設の増加	-	126 施設	138 施設	138 施設 (2022 (R4))	205 施設	B
生活習慣病のリスクを高める量を毎日飲酒している者の割合の減少（純アルコール摂取量が男性 40 g 以上、女性 20 g 以上）	40～74 歳 男性	9.4%	8.9% (2018 (H30))	9.0% (2022 (R4))	8.0%	B
	40～74 歳 女性	3.2%	3.8% (2018 (H30))	5.0% (2022 (R4))	2.7%	D

■今後の方向性

- 喫煙関連疾病に対する知識の更なる普及の取組と、禁煙支援の取組を推進していきます。
- 妊娠中の喫煙は低出生体重児や胎児発育遅延、早産のリスクが高まるため、喫煙が母体や胎児に与える影響に関する正しい知識の普及に努めます。また、不安やストレスが喫煙の一因となっていることも考えられるため、それらを含めた対応を行っていきます。
- 受動喫煙防止対策認定施設については中間評価から増加していないため、推進に向けた効果的なアプローチ方法について検討を行っていきます。
- 生活習慣病のリスクを高める飲酒をしている人を減らすため、ターゲットを絞るなど、より効果的な周知方法を検討していきます。
- 飲酒による問題を抱える本人や家族に対し、保健所や病院等と連携を図り、個別支援の充実に取り組む体制づくりを行います。また、アルコール専門相談や断酒会などの相談窓口の更なる周知を行っていきます。

*3 COPD（慢性閉塞性肺疾患）：従来、慢性気管支炎や肺気腫と呼ばれてきた病気の総称。タバコ煙を主とする有害物質を長期に吸入曝露することで生じた肺の炎症性疾患であり、喫煙を背景に中高年に発症する生活習慣病といえる。

⑤歯・口腔の健康

口腔の健康状態を把握し、早期の疾患発見や予防につなげることできるよう、妊婦歯科健康診査、成人歯科健診、８０２０・９０２０*⁴歯科健診を実施しました。福祉健康まつりや健康推進活動、シニア元気パトロール事業等では、歯科に関する健康教育や健康相談を実施しました。指標のひとつである歯科健康診査受診者の割合は計画策定時より増加していますが、低い水準にとどまっているため、受診環境の改善や更なる周知が求められます。

保育園や小学校では、歯・口腔内の清潔が保たれるよう、歯磨き指導とフッ素洗口を実施しています。むし歯のない幼児、児童、生徒の割合は概ね目標値に達しており、取組の効果があったと考えられます。しかしながら、保護者による仕上げ磨きがされている１歳６か月児の割合は減少しているため、引き続き周知・啓発を行っていく必要があります。

■指標ごとの目標達成状況

※実績・目標値は年度の値

評価指標	対象者	実績			目標値 2024 (R6)	評価
		策定時値 2013 (H25)	中間評価 2019 (R1)	現状値 2023 (R5)		
むし歯のない幼児、児童、生徒の割合の増加	３歳児	88.9%	90.7% (2018 (H30))	92.8% (2022 (R4))	95.0%	B
	園児	61.1%	67.6%	76.6% (2022 (R4))	64.1%	A
	児童	52.8%	68.0%	61.4% (2022 (R4))	55.0%	A
	生徒	55.8%	71.6%	73.7% (2022 (R4))	60.0%	A
保護者による仕上げ磨きがされている幼児の割合の増加	１歳 ６か月児	74.4%	73.0% (2018 (H30))	72.4% (2022 (R4))	90.0%	D
	園児	69.5%	77.7%	79.2%	84.5%	B
歯科健康診査受診者の割合の増加	40 歳	4.1%	7.8% (2018 (H30))	7.5% (2022 (R4))	6.9%	A

■今後の方向性

- 早期からの指導を開始するため、乳幼児健診や保育園や学校等において、正しい歯磨き習慣の定着、仕上げ磨きの効果について周知・啓発を行っていきます。また、子どもの歯周病が全国的に増加傾向にあるため、子どもの歯周病予防についても周知・啓発を進めます。
- 定期的に歯科健康診査を受けることの重要性について、更なる周知を図っていきます。
- 口腔の健康は、全身の健康にも大きく影響するため、８０２０・９０２０運動を推進するとともに、医療機関、介護部門と連携し、適切な口腔ケア方法などについて周知・啓発を行っていきます。

*⁴ ８０２０・９０２０：８０歳、９０歳になっても自分の歯を２０本以上保つことを目標とした運動のことを「８０２０・９０２０運動」といい、知立市では「８０２０・９０２０運動」の一環として、８０２０歯科健康診査・９０２０歯科健康診査を実施し、自分の歯が２０本以上残っている人を表彰している。

基本方針２ 疾病の発症予防と重症化予防を徹底します

広報や市ホームページ、リーフレットのほか、福祉健康まつりや特定保健指導、健診結果相談、医師健康講座などの様々な機会を通じて疾病についての知識や疾病予防に重要な生活習慣についての知識を周知・啓発したほか、職域と連携し、商工会や協会けんぽ等に検診の受診勧奨などを行いました。また、健診環境を整えるために外国語の案内通知を作成したほか、ＩＣＴを活用した予約システムを取り入れました。取組の効果もあってか、知立市特定健康診査受診率は上昇していますが、目標達成には至っておらず、メタボリックシンドローム*5の該当者及び予備群の割合は増加傾向にあります。がん検診受診率についても上昇しているものの、こちらも目標達成には至っておらず、引き続き受診率向上に向けて取り組む必要があります。

■指標ごとの目標達成状況

※実績・目標値は年度の値

評価指標			対象者	実績			目標値 2024 (R6)	評価
				策定時値 2013 (H25)	中間評価 2019 (R1)	現状値 2023 (R5)		
①がん	がん検診 受診率の 増加	胃がん	40 歳以上	7.7%	6.5% (2018 (H30))	5.5% (2022 (R4))	40.0%	C
		大腸がん	40 歳以上	15.4%	19.6% (2018 (H30))	19.3% (2022 (R4))	40.0%	B
		肺がん	40 歳以上	7.2%	18.5% (2018 (H30))	17.5% (2022 (R4))	40.0%	B
		乳がん	40 歳以上	17.2%	18.7% (2018 (H30))	20.2% (2022 (R4))	50.0%	C
		子宮がん	40 歳以上	28.8%	23.8% (2018 (H30))	23.1% (2022 (R4))	50.0%	D
②循環器疾患・ 糖尿病	知立市特定健康診査受 診率の増加		40～74 歳	38.3%	42.1% (2018 (H30))	42.4% (2022 (R4))	60.0%	B
	知立市特定保健指導実 施率の増加		40～74 歳	17.8%	13.4% (2018 (H30))	19.5% (2022 (R4))	60.0%	C
	脂質異常症（中性脂肪 150mg/dl 以上の者）の 減少	40～74 歳男性 （服薬者含む）	26.2%	26.0% (2018 (H30))	25.0% (2022 (R4))	19.7%	B	
		40～74 歳女性 （服薬者含む）	15.1%	16.1% (2018 (H30))	15.0% (2022 (R4))	11.3%	C	
	脂質異常症（LDL コレス テロール 160mg/dl 以上の 者）の減少	40～74 歳男性 （服薬者含む）	10.2%	10.8% (2018 (H30))	8.5% (2022 (R4))	7.7%	B	
		40～74 歳女性 （服薬者含む）	19.4%	18.6% (2018 (H30))	15.9% (2022 (R4))	14.6%	B	
	高血圧の改善（Ⅰ度高血 圧以上（最高血圧 140 以 上または最低血圧 90 以 上）の者の割合の減少）	40～74 歳男性 （服薬者含む）	28.2%	27.7% (2018 (H30))	37.8% (2022 (R4))	21.2%	D	
		40～74 歳女性 （服薬者含む）	26.9%	26.3% (2018 (H30))	35.0% (2022 (R4))	20.2%	D	
	メタボリックシンドロ ームの該当者及び予備 群の割合の減少		40～74 歳	28.8%	31.8% (2018 (H30))	33.3% (2022 (R4))	21.6%	D
	糖尿病有病率の減少		40～74 歳	11.3%	11.5% (2018 (H30))	13.8% (2022 (R4))	8.8%	D

*5 メタボリックシンドローム：内臓肥満に高血圧、高血糖、脂質代謝異常が組み合わさることにより、心臓病や脳卒中などになりやすい病態を指す。ウエスト周囲径が男性 85 cm、女性 90 cm 以上で、血圧、血糖、脂質のうち 2 つ以上が診断基準から外れるとメタボリックシンドロームと診断される。

■今後の方向性

- がんの早期発見、早期治療に向けて、がん検診の重要性の周知・啓発を引き続き行っていきます。また、受診率の向上を図るため、ICTの活用や検診日時の拡大等、受診しやすい体制づくりに取り組んでいきます。
- 生活習慣とメタボリックシンドロームの関係性について、引き続き周知を行うとともに、特定健康診査の受診勧奨を行っていきます。
- 特定健康診査受診率・特定保健指導実施率向上のため、医療機関と連携し、受診勧奨を行うとともに、効果的な勧奨資材を検討していきます。また、若い世代の受診率向上に向け、受診しやすい環境とともに、インセンティブを活用した効果的なアプローチについて検討していきます。
- 評価指標のうち、高血圧の改善、糖尿病有病率の減少については悪化となっているため、取組の充実を図ります。

基本方針3 社会で支える健康づくりを推進します

地域の健康づくりの担い手となる健康推進員や食育知立（ともだち）の会、健康ボランティアの活動の支援を行いました。コロナ禍の影響もあり、参加者の増加には至りませんでした。今後は活動の周知のほか、魅力的な内容や参加しやすい環境づくりを進めていく必要があります。

また、健康知立（ともだち）マイレージ事業を実施し、行政と市民、地元企業・商店等が連携し、地域全体で健康づくりを推進する仕組みをつくりました。

■指標ごとの目標達成状況

※実績・目標値は年度の値

評価指標	対象者	実績			目標値 2024 (R6)	評価
		策定時値 2013 (H25)	中間評価 2019 (R1)	現状値 2023 (R5)		
食生活改善推進員（現：食育知立（ともだち）の会会員）の増加	市民	35 人	28 人	23 人	40 人	D
健康ボランティアの増加	市民	39 人	37 人	14 人 (2022 (R4))	60 人	D
健康推進活動に参加する人数の増加	市民	2,500 人	1,981 人 (2018 (H30))	1,038 人 (2022 (R4))	3,000 人	D
地域でお互いに助け合っていると考えている人の割合の増加	20～74 歳	23.8%	26.0%	24.7%	31.7%	B
過去1年間にボランティア活動に参加した人の割合の増加	20～74 歳	18.9%	18.9%	25.0%	30.0%	B
生涯学習地域推進講座の参加者数の増加	市民	12,707 人	18,193 人 (2018 (H30))	10,430 人 (2022 (R4))	14,000 人	D

■今後の方向性

- 住民相互のつながりの強い地域に住んでいる人ほど健康感が高いといわれていることから、若い頃から地域活動に参加しやすいよう、情報発信や環境づくりを進めていきます。
- コロナ禍の影響で減少している健康推進活動や生涯学習地域推進講座の参加者数が増加するよう、今後も継続して周知を図るとともに、魅力的な内容の検討、参加しやすい環境づくりを進めていきます。
- 食生活改善推進員、健康ボランティアについては会員や参加者が減少傾向であるため、活動を周知するなど、会員、参加者の増加につながるよう活性化を促し、ボランティア活動を支援していきます。また、地元企業や商店等とも連携し、健康知立（ともだち）マイレージ事業の推進を図っていきます。